

Ⅲ まちの将来像

(1) まちづくりの理念

昭和の新制岩出町誕生から平成の岩出市誕生へ。今、岩出は市制施行という大きなゲートを通過し、新たな飛躍を迎えようとしています。

これまでのまちづくりは、市制を見据えた都市基盤の整備に重点を置き、都市機能の充実に向け取り組んできました。また、都市化が進む中でも守られ続けてきた、恵まれた自然環境や伝統ある歴史・文化は、貴重な市民の財産であり本市を代表するものとして、将

来の地域づくりの核となり得るものでもあります。

今後は、近年の社会経済情勢や国の動向などがめまぐるしく変化する中で、本市が紀北地域の核都市としてふさわしい役割を果たしていかなければなりません。

新しい時代の幕開けにふさわしいまちづくりを進めていくためには、都市の風格を持った都市基盤の整備や希薄化するコミュニティの形成強化、地域の連携・交流などが求められます。

市民の一人ひとりが住んでよかったと思える

「市民の立場・目線でのあたたかなまちづくり」、

「市民が参加するひらかれたまちづくり」、

「公正・平等で信頼されるまちづくり」をテーマに、

市民・地域との「対話と協調」のもとまちづくりを進めていくことを本市のまちづくりの理念とします。



(2) 将来都市像

豊かな穀倉地帯として農業を基盤として発展してきた岩出。しかし、近年は和歌山市や大阪都市圏の郊外都市として、単独での市制を施行できるまで、まちの力をつけてきました。新しく若い力あふれる本市は、激動の時代にあっても市民一人ひとりが、それぞれの

ステージで活躍し、地域で協力し、支え合い、すべての市民の人権が尊重され、笑顔で安心でき、いきいきと健康で暮らせるまちの実現を目指して、将来の都市像を次のとおり定めます。

“活力あふれるまち ふれあいのまち”

緑豊かな住環境と歴史文化かおる健康都市 いわで

この将来都市像の実現に向け、
分野別での4つのまちづくりの大綱を掲げ、まちづくりに取り組みます。

住んでよかったと
思える
まちづくり

安全で安心して
暮らせる
まちづくり

笑顔あふれる
まちづくり

元気で健康な
まちづくり

(3) 将来人口

和歌山県内で最も若いまちである本市においても人口減少時代の波に逆らうことはできません。国立社会保障・人口問題研究所による「日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)」によると、本市の人口は、平成37年(2025年)の53,706人をピークに減少に転じるとされています。

バブル経済期に急激に増加した本市の人口も、ここ近年では増加傾向が続くものの緩やかなものになり、今後の大幅な人口増加は期待できない状況となっています。

この基本構想の目標年次である平成32年(2020年)の人口は、53,675人(同研究所推計人口)と平成22年(2010年)3月末の総人口52,694人から981人増加すると予想されます。

人口減少の時期を少しでも先延ばしするために、子育て支援などの少子化対策や地域産業の振興、優良企業の誘致などの雇用対策に取り組むことにより、本市の将来目標人口を次のとおりとします。



■人口動態

(単位：人)

区分 年度	自然動態			社会動態				差引 合計
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	その他	
平成 12 年	698	255	443	2,686	2,365	321	0	764
平成 13 年	638	255	383	2,626	2,487	139	0	522
平成 14 年	631	262	369	2,814	2,472	342	0	711
平成 15 年	621	303	318	2,605	2,299	306	0	624
平成 16 年	586	300	286	2,425	2,386	39	0	325
平成 17 年	538	340	198	2,217	2,083	134	0	332
平成 18 年	539	313	226	2,231	2,061	170	0	396
平成 19 年	533	326	207	2,131	2,026	105	0	312
平成 20 年	533	353	180	2,167	1,996	171	0	351
平成 21 年	534	345	189	2,066	1,903	163	0	352

